

<2019年度 ハローオリンピック事業>  
**オリンピック教室**

**実施報告書**

**山梨県 河口湖南中学校組合立  
河口湖南中学校**





## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

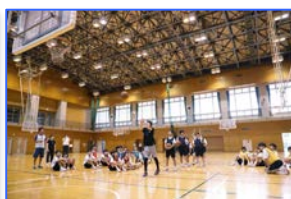
まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実 施 内 容

■期 日 : 2019年5月9日 (木) 10日 (金)

■ク ラ ス : 2年1組 (34名)、2年2組 (34名)、2年5組 (33名)

■オリンピアン : 田中 琴乃 先生 (体操/新体操) 【出場オリンピック/北京大会、ロンドン大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限、1時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、新体操には5種目あること、団体競技と個人競技の違い等の説明し、オリンピックバリュー「エクセレンス=全力で」「フレンドシップ=仲間と一緒に」「リスペクト=ルールを守って取り組む」を意識してほしいと伝えた。
- ・ストレッチを実施後、ボール取りゲーム、新体操のボール体験を実施。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・手つなぎだるまさんが転んだを全3回実施。クラス全員で手をつなぎ一列に並び、ゴールを目指す。ボールが田中先生の手が離れている間のみ動くことができる。
- ・各回終了後、作戦タイムを設け、生徒からは「男子が女子を引っ張って走った」「勢いよく走りすぎて止まれないので、ゆっくり進んだ」等の意見が挙がった。
- ・最後はチームワークにつながったことや全力で取り組んだことに全員で拍手を送った。

## 4. まとめ



- ・再度、3つのオリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」を確認後、運動中に全力で仲間と一緒にルールを守って取り組んでいたと田中先生が生徒を称え、拍手を送った。
- ・座学の時間では、運動の時間を通して大切だと思ったこと、感じたことを思い出して考えながら取り組んでほしいと伝え、授業終了。

## ■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限、2時限）

### 1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・新体操の大会映像を見せ、競技のルールや特徴、当時の心境等話す。
- ・自身のオリンピックバリューについて、エクセレンス「卓越」「ベストを尽くす」「全力で取り組む」「一生懸命頑張る」「諦めない」「努力する」「昨日の自分に負けない」、フレンドシップ「友情」「お互いを理解する」「協力」「チームワーク」「仲間」「思いやり」、リスペクト「敬意/尊重」「ルールを守る」「フェアプレー」「感謝」と伝える。

### 2. オリンピックの価値を伝える



### 3. グループワーク



発問：より良いクラスにするために必要なこと、できることをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：「日進月歩のように日々進歩できるよう努力する」「部活、勉強全てに全力」「行事でベストを尽くす」「1人も欠けないこと」(エクセレンス)  
 「合唱祭で前よりも良い結果が出せるよう協力する」「お互いを理解すること」「声を掛け合うこと」「全員が反応し発言しやすい空気作り」  
 (フレンドシップ)「色々な人の支えが合って学校で生活できることに感謝」「クラスで決めたルールを守る」「失敗しても一緒に頑張った仲間  
 に感謝」(リスペクト)

### 4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆も日常生活の中で感じることができる。人生をより良く生きるために、オリンピックバリューを頭に置いて日常生活を送ってほしい。
- ・東京2020大会について触れ、現地やテレビの前で応援し、選手や大会を支える人達に力を送ってあげてほしいと伝え、授業終了。

# 実 施 内 容

■期 日 : 2019年5月10日 (金)

■ク ラ ス : 2年3組 (34名)、2年4組 (33名)

■オリンピアン : 荻原 次晴 先生 (スキー／ノルディック複合) 【出場オリンピック／長野大会】

## ■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

### 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、皆と一緒にオリンピックについて学びたいと授業の目的を確認。
- ・荻原先生が得意なスキージャンプに絡めて、ロープジャンプ(8の字)を行うと予告し、準備体操に入る。

### 2. 準備体操



### 3. 主運動



- ・3チームに分かれて8の字跳びを90秒間で順番に跳び、引っかけも加算して数え、合計回数を競う。
- ・結果を発表し、「もっと跳べると思う」「焦らずに、相手を思って、気持ちを込めて回したり跳んだりしよう」をアドバイスを送り再度実施。
- ・2回目の結果発表を行い、最後は全員拍手で称え合った。

### 4. まとめ



- ・1回目より2回目のほうが多く跳ぶことができたのは、皆に意識の変化があったから跳ぶことができた、声を掛け合いながら頑張っている姿が素晴らしかったと生徒を称え、全員で握手を交わす。
- ・座学の授業は、荻原先生の経験を交えながら、オリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」について詳しく説明すると伝えて、授業終了。



## ■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

### 1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・映像を見せながら双子の兄である荻原 健司 氏を紹介、中学生時にはスキースキーの練習に励んでいたことを話す。
- ・自身のオリンピックバリューとして、エクセレンス「卓越」「一生懸命頑張る」、フレンドシップ「友情」「チームワーク」、リスペクト「敬意/尊重」「思いやり」「フェアプレー」「感謝」と伝える。

### 2. オリンピックの価値を伝える



### 3. グループワーク



発問： 普段の生活の中で、オリンピックバリューを感じることができるのはどのような瞬間か考えてみよう。

発表： 「テストで良い結果が出せた」「部活で全力を尽くした」「きつい練習をやり遂げた時」「諦めずに夢を叶えた時」「悔しいと思い努力した時」  
（エクセレンス）「学校行事でクラスで協力できたこと」「励ましあった時」「教えあう時」「応援あった時」（フレンドシップ）「1人ではできなくても仲間がいるからできることに感謝」「他の部員をフォロー」（リスペクト）

### 4. まとめ



- ・東京2020大会について触れ、河口湖周辺ではフランス選手団がトレーニングを行うため、オリンピックを身近に感じられると伝える。
- ・スポーツを通じてオリンピックバリューを感じることがオリンピックに託された願いで、オリンピックシンボルの5つの輪は世界の大陸を表していると説明。辛く感じるその時こそ自分が一番成長する瞬間であると伝え、授業終了。

■ 集合写真  
2年1組



2年2組



■ 集合写真  
2年3組



2年4組



■ 集合写真

2年5組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



2年5組



■ 修了証贈呈

